

# 令和3年度 学校評価シート <前期中間報告>

上田市立西小学校

●7月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施

●評価：A「十分に達成された」 B「おおむね達成された」 C「やや達成されなかった」 D「達成されなかった」

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
進んで学び 豊かな心をもって たくましく生きる子 <めざす姿> 自ら気づき 友と考え のびのびと表現する子ども	○かしこく《学力向上》 問いをもち 友と関わりながら 追究する子	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、グループでテーマを決めて調べたり相談したりしながら、協力して一つの提案書を書いて発表する学習活動ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち同士が関わり合う場を確保していくという授業改善は向上していると考えられる。さらに、より追究が深まるためには、どのような関わらせ方がいいのか研究していきたい。</li> </ul>
	○やさしく《関係力向上》 相手のことを考えて 行動できる子	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級目標として「ふわふわ言葉」を増やしていこうという目標を立てた。毎日、どんな「ふわふわ言葉」を言い合うことができたか、帰りの会で振り返ることができた。</li> <li>・様々な場面でグループ活動やペア活動を取り入れたことで、相手のことを考えながら行動できる姿が増えてきた。(国語や社会での話し合いや発表、体育のチームなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染警戒レベルを考慮しながら、できるだけペア学級同士での異年齢交流の場を確保していきたい。</li> <li>・児童会執行部は、「ふわふわ言葉」を増やす活動を本年度の重点に掲げている。さらにその活動方針で、全校への働きかけを活発化させていきたい。</li> </ul>
	○たくましく《体力向上》 心身ともに健康で 粘り強く取り組む子	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西小スポーツデー」は昨年度と同様に、感染対策を講じながら実施することができた。各学年の発達段階に応じた競技に取り組むことを通して、スポーツに親しみながら体を鍛えることができた。</li> <li>・「西小スポーツデー」では、低学年の部では3年生が上級生となるので、疲れていても頑張る姿を意識し、見本となって最後まで取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも取り組める運動は何か検討していきたい。</li> <li>・遊びやレクレーションを通して体を動かすことも大切にして、時間や場の確保をしながら体力の維持・向上を目指していきたい。</li> </ul>

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇運動(身体みがき),ドリル(頭みがき),表現(声みがき),人権(心みがき)の実践と評価	日課の中に位置づけ,実態に応じた内容で全校で実施し,伸びを評価できたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は新型コロナウイルスのためできなかった「みがきタイム」を、本年度は日課の中に位置づけて、全校で取り組む体制ができた。</li> <li>・「身体みがき体操」を、毎日、朝の会で取り入れているが、効果があるのかわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身体みがき体操」の取り組み方、評価方法等について検討・改善していきたい。</li> </ul>
		◇特別支援教育の考え方と手法を取り入れた指導	掲示,発問,環境の工夫,個別の指導計画の活用,学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級と通常学級の担任が連携して、個別の指導計画の作成や個への支援内容について理解を深め合うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困り感を持っている児童や集団に適応することが難しい児童たちへの支援を大切に考えていきたい。定期的に関係職員で支援会議を開き、学校と家庭が連携しながら指導していきたい。</li> </ul>
	学習指導	◇基礎学力の定着と活用・表現力の向上	基礎を繰り返す「頭みがき」を中心にしながら基礎学力の定着が図れたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算問題では、前年度の既習事項を取り入れ、現学年の基礎を確かなものにするのができた。</li> <li>・児童アンケートでは、「先生の授業はわかりやすい」と答えた児童が97%であった。基礎的な学習内容が定着してきた結果とも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「頭みがき」の問題をさらに吟味し、子どもたちにとって必要感のある問題、子どもたちにとって課題となっている単元の問題等に取り組ませていきたい。</li> </ul>
			繰り返しの「声みがき」を中心としながら、自己表現力の向上を図れたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度はコロナ禍で、大きな声を出す活動が十分できなかった。そのため4月は声を出すことに慣れずにいた子どもたちだったが、1学期末には大きな声を発することができる子が増えてきた。</li> <li>・「声みがき」が自己表現力につながるものか見えない面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己表現力につながる「声みがき」になるよう、課題や取り組みせ方を検討したい。</li> <li>・MIMに関する学習を取り入れていくことで、子どもたちの読みのつまずきについて実態が把握できるし、言葉に関する力を伸ばすことにもつながると思われる。</li> </ul>
			読書の積み重ねや読み聞かせを通して、本に親しむ子どもの姿が見られたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートでは、「本を読むことが好き」と答えた児童が87%と多くいた。</li> <li>・コロナ禍ではあったが、感染警戒レベルを考慮しながらボランティアの方々の読み聞かせも行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用では、単に冊数の多さだけを評価するのではなく、発達段階に応じた内容や、幅広い分野に興味や関心が持てるような読書指導をしていきたい。</li> </ul>

		家庭学習ノート「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣を身につけることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「紡ぐ」の「学習・メディア・就寝」の記入欄が十分に活用できず、空欄のままの児童も多い。また、担任も記入欄を毎日点検することは時間的に難しい現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「紡ぐ」に目を通すことを家庭に呼びかけることで、更に生活習慣や学習習慣に対する意識が向上するのではないかとされる。</li> <li>・特にゲームやネットに関わる時間や使い方のルールは、家庭に任せている面が大きい。学校と家庭が連携を取りながら、子どもたちのネットリテラシーを育成していきたい。</li> </ul>
生活指導	◇あいさつと交流による敬意に基づく集団の形成	あいさつ運動や異学年との交流、西小アドベンチャーなどを通して、子ども同士の繋がりを深めることができたか	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会が中心となり、あいさつ運動では役員が各教室を回り、元気のよいあいさつを交わすことができた。</li> <li>・児童アンケートでは、「自分から大きな声であいさつをしている」と答えた児童は82%で、昨年度の結果より12%増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西小伝統の「ハイタッチあいさつ」はできないが、それに代わるあいさつを考えて提案していきたい。</li> <li>・あいさつをする意識は高まってきたが、さらに「自分から」という姿が増えてくるように、学校全体の雰囲気を高めていきたい。</li> </ul>
	◇心と身体みがき	「身体みがき運動」や5分間走、外遊びと縄跳びの奨励を中心に身体の健康の維持や体力の向上を図れたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の向上につながったとは言えないかもしれないが、「身体みがき」運動を毎日の活動の中に取り入れた。</li> <li>・体育の授業で個人課題を設定することで、休み時間も自主的に縄跳びに取り組む姿が見られた。</li> <li>・毎日1回は縄跳びに取り組むことで、少しずつだが子ども自身も自分の体力や技術の向上を実感していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスの影響で、マスクをしながらの激しい運動はできないため、負荷のかかる運動があまりできず、体力向上という目標に向けて力を入れにくいというジレンマがある。密にならなくてもできる運動を工夫したり、息が上がらなくても体力の維持・向上につながる運動を取り入れていきたい。</li> </ul>
		ペア学級など異年齢との交流や道徳教育を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちや人権感覚を高められたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年との交流では、意識して低学年に合わせている高学年の姿が見られた。</li> <li>・十分時間をとることは難しかったが、短い時間でも高学年が低学年に優しく接してくれて、温かい交流の場面があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西小アドベンチャー」やペア学級との交流会で、異年齢とのふれあいの場を確保していきたい。</li> <li>・感染拡大予防も配慮し、直接ふれあう活動だけでなく、手紙や感想文の交換など、相手を思いやる活動を工夫して取り組んでいきたい。</li> </ul>
学校運営	◇地域の素材・人材を活用した教育活動	生活科や総合的な学習を通して、地域の素材・人材と関わりを持ち、地域の理解や繋がりを深める学習活動が展開できたか(地域探検、社会科見学、米作り等)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の公民館と連携し、5学年の田植え体験を実施することができた。</li> <li>・地域の素材である「蚕」の飼育から、地域について考える学習ができた。</li> <li>・ニチイケアセンターを調べ学習し、利用者さんに気持ちを寄せながら、自分たちにもできることを考えることができた。</li> <li>・講師として地域の方をお一人、教室へ招き、児童に指導をしていただいた。</li> <li>・校長講話では、廃線となった真田・傍陽線、上田城、上田泥流などの話を聞き、自分たちが住んでいる地域について目を向けるきっかけとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で取り組んだ学習について、どんな地域素材を学習したのか、取り組んだ時の様子や学習の成果などについて資料を蓄積していけるといい。貴重な実践なので、その後、他の学年で取り組む際の参考になるようにしていきたい。</li> </ul>
	◇信州型コミュニティスクールの推進と学校支援ボランティア活動	地域と連携した学校支援ボランティアを組織し、活用するとともに、広く広報できたか。(見守り隊、読み聞かせ、米作り、高原学習等)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度もコロナウイルスの影響でクラブ活動での地域ボランティアはお願いできなかったが、見守り隊、読み聞かせ、米作りなどで、幅広くボランティアの方々との連携する活動ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあるが、引き続きボランティアの方々との連携を取りながら、可能な範囲でボランティアをお願いしていきたい。また、子どもたちには、直接関わってなくても、西小ではどんな活動でボランティアの方々にお世話になっているのか、事ある毎に伝えていきたい。</li> </ul>
	◇学習指導の充実や児童理解を深めるための研修や地域保護者との信頼を深めるための研修	授業研究会や生徒指導研修会、非違行為防止研修会を継続的に行い、職員の意識を高めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観や全校研究授業では、参観者を授業の前半・後半で半分に分けて、入れ替え制にするなどの感染対策を講じながら実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの導入や一人一台端末を利用した授業が始まった。それに伴うICT活用のための研修を進めていきたい。</li> </ul>